

# DPA (DWIDP) JICA 便り

防災対策アドバイザー (Disaster Prevention Advisor) 水資源省治水砂防局 (DWIDP)

No. 3 / 2006 . 11 . 30

ここネパールでは 10 月に雨期が明け、乾期に入ったところ。ところが今年は低空にかかる雲や街のダスト等によりカトマンズ盆地からヒマラヤの山々の姿を目にする機会は少ないように感じます。地球温暖化の影響ではないかと噂されています。また 11 月は収穫の時期です。カトマンズ盆地でも街を少し離れると、収穫した籾米 (もみごめ) を乾燥させたり、二毛作のため畑に種を播く風景に出くわします。10 月からの 1 ヶ月間においては水に起因する災害は報道されていません。



収穫した籾米の乾燥 (11 月初旬 ティミ)

国内情勢については、政府とマオイストの和平交渉が合意に達し 21 日にコイララ首相とマオ派プラチャダ議長との間で署名が行われました。11 年間のマオ派と政府の戦争に終止符が打たれた形になりました。これから制憲議会選挙に向けいくつかのステップを踏んでいくこととなりますが、今回の署名が平和な国づくりのための一つの契機となることが期待されます。しかし 4 月以降の警察の治安維持能力の低下のためか、盗難等の一般犯罪が増加の傾向にあるとともに、地元住民の行政等への不満に起因する道路封鎖も時おり発生しています。

今後とも安全に十分注意を払いつつ、ネパールの災害の軽減を図り、災害で苦しむ人々が少なくなることを願って活動をしていきたいと思えます。

## NPO ネパール治水砂防技術交流会のスタディツアーの皆様が訪ネされました

11 月 19 日 (日) から 23 日 (木) の日程で NPO 法人ネパール治水砂防技術交流会 (NFAD) 主催の日ネ国交樹立 50 周年記念スタディツアーが行われ、田村公平参議院議員はじめ大井 NFAD 理事長 (DPTC 初代チーフアドバイザー)、友松 NFAD 前理事長 (共生機構株取締役会長)、森 NFAD 事務局長 (財)砂防フロンティア整備推進機構理事長、田村先生の地元支援者の方々など 13 名の皆様を訪ネされました。当スタディツアーは 2002 年以降実



大井理事長(右)による雨量計の説明  
(シュリー セチ デビ小学校にて)

施できず、今回は久しぶりの実施となります。20 日には、2002 年に 16 名の死者行方不明者を出したマタチルタ地区の土石流発生現場の視察と、当地区にあり交流会から雨量計を贈呈したシュリー セチ デビ (Shree Seti Devi) 小学校の視察、そして同じく当地区に設置されている今年 8 月の彫刻シンポジ

ウムで彫刻家の杉本準一郎氏に制作いただいた彫刻の視察を行いました。帰路には、ピシュヌ デビ シクシャ サダン (Bishunu Devi Shiksha Sadan) 小中学校にて、NFAD 活動の一環である洪水・土砂災害に関する作文コンクールの実施状況を視察しました。作文記述終了後のセレモニーのなかで生徒達からの質問に答える時間が設けられ、日本とネパールの習慣の違いや日本とネパールのこれからの関係についての質問が生徒達からあり、後者の質問に対して田村先生から、これまでの日ネの関係について触れられるとともに、これといった天然資源を持たない両国は優秀な人材が大きな資源となること、そのためには生徒みんなが生懸命勉強することが重要とのお話をいただきました。午後は DWIDP にて筆者からこれまでのプロジェクト及びフォローアップ活動について説明するとともに、セミナーホールにてパッターライ局長はじめ DWIDP 職員による歓迎セレモニーが行われました。



生徒の質問に答える田村議員（中央）  
(ピシュヌ デビ シクシャ サダン小中学校)

21 日はカトマンズから東方へ 40Km ほどいった、ドゥリケル近くのパトレケート村 (Patleket VDC) にて開催される桜の記念植樹に参加する予定で朝から現場に向かいましたが、バクタプールから先の地点で前日発生した交通事故の処理に対する地元住民の不満から道路を封鎖する事態が発生し、現地に向かっていた平岡駐ネ日本大使とともに足止めされ、結局現地に到達することは出来ませんでした。その夜はカトマンズ盆地内でのヒマラヤの展望地として名高いナガルコットに宿泊し、田村先生は 22 日に、その他の皆様は 23 日に無事日本への帰途につきました。



DWIDP にて挨拶される田村議員（中央左）

皆様からは食料品等のお土産を沢山いただきました。関係の皆様にお配りするとともに青年海外協力隊員へも贈らせていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

### 主な出来事・トピック

#### ムグリン ナラヤンガード道路の現地踏査を実施しました

11 月 14 日 (火) ~ 15 日 (水) の日程で、JICA 事務所の津守所員 (9 月以降、防災の担



左岸側袖部を破壊されたガビオンダム  
(左：津守所員、右：ジョシ所長代理)

当事者が徳田所員から変更されている) とともにムグリン-ナラヤンガード道路 (M-N 道路) の現地踏査を実施しました。DWIDP から要求している当道路災害復旧に関する開発調査に関して現地の確認を行うことを目的としたものです。現地にて DWIDP の M-N 道路プロジェクト事務所ジョシ所長代理 (Dr.Surendra Raj Joshi) とエンジニアが合流しました。筆者にとっては 6 月以来の当地区の

現地踏査ですが、今年の降雨を受けて主にギャピオンによるチェックダムが多く被災を受けていました。一方 DWIDP の M-N プロジェクト事務所で対策工を実施したルアコーラ、カハレコーラその他で土砂流出防止効果を十分発揮し災害を防止した箇所も見られました。ルアコーラの現場では、チェックダム満砂後にも堆砂空間によって次期の土砂流出を防ぐことが出来る土砂調節効果について筆者から CP へ説明しました。ただしこれらの溪流も含め、流域・斜面の状況（地形・地質、面積等）の厳しい箇所が多く、M-N 道路の重要性を考えればその抜本的対策・そのための調査は必須と考えられます。

15 日はタライ地方からカトマンズへ向かう唯一の別ルートでありヘタウダを経由するトリブバンハイウェイを使って戻ってきましたが、こちらの道路は幅員・勾配等から物資等輸送の代替道路とするには厳しく、改めて M-N 道路を常時通行可能とすることの重要性を認識しました。



満砂したルアコーラ第 1 ダム

### 駒ヶ根市市民訪問団の皆様への訪ネ

長野県駒ヶ根市ではポカラ市との国際協力友好都市協定が 5 周年を迎えるのにあたり、市長を団長とした市民訪問団（総員 33 名）の皆様が 12 日（日）～17 日（金）の日程で訪ネされ、ポカラ市で記念行事等を実施されました。また駒ヶ根市では「青年海外協力隊訓練所のあるまち」としてまちづくりを進めており、16 日（木）に「関係者との懇談および協力隊員激励会」が開催されました。筆者も当市にある国土交通省天竜川上流河川事務所に在籍した経験等が縁で招待をいただきました。激励会では中原市長および協力隊訓練所の加藤所長の挨拶、隊員の皆様によるネパールダンスなどが披露されました。



中原市長（左）の挨拶（右は駒ヶ根市から JICA 事務所へ派遣中の林調整員）

### 利賀村の皆様への訪ネ

11 月 8 日（水）、富山県(旧)利賀村（現南砺市）の皆様が DWIDP に来所されました。南砺市利賀行政センターの中谷信一センター長はじめ 11 名の方は、日ネ国交樹立 50 周年を記念して(旧)利賀村と友好村として交流されているツクチェ村へ訪問されたものです。筆者がネパールにおける災害の状況・治水砂防の技術移転に関してパワーポイントおよび DWIDP エントランスホールにあるパネルを使用して説明しました。皆様はツクチェからカトマンズに戻ってこられた 8 日当日の、大変お忙しい行程のなか DWIDP を訪問いただきました。



DWIDP エントランスホールにて

## 防災対策アドバイザー活動

### 内務省防災担当を訪問し聴取・施設の見学などをしました

11月12日(日)に、内務省の防災担当 Under Secretary のティル バハドゥール G.C.



ネパール氏(右)から説明を受ける  
(中央はG.C氏)

氏(Mr.Thir Bahadur G.C.)を訪問し、内務省の基本的な活動内容、今年の雨期の際の西部地区での豪雨災害時の対応などについてお聞きするとともに、内務省で有している情報収集体制を視察させていただきました。内務省では、平和維持のためのセクションにて常時情報を受け取れる体制を敷いており、通常取り扱う情報は治安関係等が多いと思われませんが、災害発生時には災害情報はそのセクションに入っているとのことで、当セクションの責任者であるエク マニ ネパール(Mr.Eka Mani

Nepal)氏からもお話を聞くことが出来ました。また災害発生後には中央と地方レベルにあるそれぞれの「災害救援委員会」が中心となって救援活動にあたりますが、これら地方の委員会でのキーパーソン等の情報も得ることが出来ました。

## 編集後記

今年は日ネ国交樹立50周年として各種記念行事が開催されておりますが、特に11月の後半は「ジャパンウィーク」として多くの行事が行われ、日本から多くのお客様に来ていただきました。和平プロセスが順調に進み、今後とも多くの皆様においでいただけるようになることを切に期待します。

編集責任者：武士俊也

電話：+977-1-5535502 Fax：同-5523528 E-mail：[dmspfu@wlink.com.np](mailto:dmspfu@wlink.com.np)